



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月7日

上場会社名 株式会社CKサンエツ

上場取引所 名

コード番号 5757 URL <http://www.cksanetu.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 釣谷 宏行

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務・企画部長 (氏名) 松井 大輔

TEL 0763-33-1212

四半期報告書提出予定日 平成25年2月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	35,744	△15.7	1,793	33.8	1,826	△4.7	1,483	△14.2
24年3月期第3四半期	42,414	21.2	1,340	△49.4	1,915	△23.5	1,728	17.2

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 1,462百万円 (△5.2%) 24年3月期第3四半期 1,542百万円 (5.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	222.14	—
24年3月期第3四半期	235.28	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	32,387	16,384	48.1	2,313.93
24年3月期	33,928	15,150	41.8	2,120.74

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 15,565百万円 24年3月期 14,191百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
25年3月期	—	6.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	46,000	△15.3	2,000	5.1	2,150	0.3	1,650	△15.7	246.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(1)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(2)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	8,867,000 株	24年3月期	8,867,000 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	2,139,999 株	24年3月期	2,175,149 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	6,675,923 株	24年3月期3Q	7,346,239 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州債務危機、長引く円高、中国の景気減速、国内産業の空洞化などにより、景気が低迷したまま推移しました。当社グループの主要原料で国際相場商品である銅の価格は、3月から6月にかけて下落しましたが、9月以降は上昇に転じました。

このような経営環境のもとで、当社グループ（当社及び連結子会社）は、収益構造の改善に注力しました。具体的には、まず、連結子会社シーケー金属株式会社は、業界再編の推進と相乗効果の追求を目的として、株式会社リケンと、配管機器の製造拠点を統合し、株式会社リケンCKJVとして、4月1日から操業を開始しました。次に、連結子会社サンエツ金属株式会社では、茨城県にある新日東事業所において、東京電力が原発事故の処理費用等の負担分を電力料金の大幅な値上げにより価格転嫁してきたため、工場の省エネ活動に注力しました。また、12月には古河電気工業株式会社との間で、同社日光事業所の銅合金線製造設備の一部を譲受することを合意し、平成25年3月以降、サンエツ金属株式会社の高岡工場へ順次移設することで、コネクタ用四角線、すざりフローめっき線等高付加価値製品の生産能力増強を図ることにいたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高が357億44百万円（前年同四半期比15.7%減少）となり、営業利益は17億93百万円（同33.8%増加）、経常利益は、営業外費用に計上した原料相場のリスクヘッジのためのデリバティブ評価損が42百万円（前年同四半期はデリバティブ評価益5億32百万円）だったため、18億26百万円（同4.7%減少）となりました。四半期純利益は、連結子会社であるシーケー金属株式会社が同社自己株式を取得したことにより、負ののれん発生益を特別利益として2億90百万円（前年同四半期は5億76百万円）計上し、また、連結子会社であるサンエツ金属株式会社が、希少金属利用産業等高度化推進費補助金など、補助金収入1億39百万円を特別利益に計上したため、14億83百万円（同14.2%減少）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

①伸銅

伸銅事業では、販売量は、5万7,555トン（前年同四半期比7.7%減少）となりました。売上高は、原料の銅価格が前年同四半期より相対的に低い水準だったため、293億88百万円（同19.1%減少）となりましたが、前年同四半期に発生した原料の銅価格下落に伴う相場差損が発生しなかったため、セグメント利益は、17億16百万円（同22.7%増加）となりました。

②精密部品

精密部品事業では、売上高は29億39百万円（前年同四半期比0.2%増加）となりましたが、機械等の増設に伴う減価償却費などが増加したため、セグメント損失は、47百万円（前年同四半期はセグメント利益53百万円）となりました。

③配管・鍍金

配管・鍍金事業では、北陸新幹線の駅舎などの建設工事において、独自技術である鉛レス・カドミウムレスの環境対応溶融亜鉛鍍金を大量に受注したため、売上高は34億15百万円（前年同四半期比8.1%増加）となり、セグメント利益は、48百万円（前年同四半期はセグメント損失1億82百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は228億85百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億74百万円減少いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が6億23百万円、たな卸資産が6億98百万円減少したことによるものであります。固定資産は95億1百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億66百万円減少いたしました。これは主に有形固定資産が5億96百万円、投資有価証券が1億13百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、323億87百万円となり、前連結会計年度末に比べ15億40百万円減少いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は132億84百万円となり、前連結会計年度末に比べ34億14百万円減少いたしました。これは主に未払法人税等が5億14百万円増加したものの、支払手形及び買掛金が6億23百万円、短期借入金が30億30百万円減少したことによるものであります。固定負債は27億18百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億40百万円増加いたしました。これは主に長期借入金が7億21百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、160億3百万円となり、前連結会計年度末に比べ27億74百万円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は163億84百万円となり、前連結会計年度末に比べ12億33百万円増加いたしました。これは主に四半期純利益14億83百万円などによるものであります。

この結果、自己資本比率は48.1%（前連結会計年度末は41.8%）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績業績につきましては、平成24年11月7日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	390	442
受取手形及び売掛金	13,926	13,302
商品及び製品	3,615	3,853
仕掛品	3,085	2,694
原材料及び貯蔵品	2,406	1,862
前払費用	68	45
繰延税金資産	250	244
その他	44	466
貸倒引当金	△27	△25
流動資産合計	23,760	22,885
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,100	6,154
減価償却累計額	△3,195	△3,347
建物及び構築物（純額）	2,904	2,806
機械装置及び運搬具	16,231	13,698
減価償却累計額	△14,273	△12,207
機械装置及び運搬具（純額）	1,957	1,490
土地	3,994	3,998
建設仮勘定	17	14
その他	1,638	701
減価償却累計額	△1,542	△638
その他（純額）	95	62
有形固定資産合計	8,969	8,373
無形固定資産		
その他	53	53
無形固定資産合計	53	53
投資その他の資産		
投資有価証券	785	672
長期前払費用	9	0
前払年金費用	308	206
その他	153	294
貸倒引当金	△112	△100
投資その他の資産合計	1,144	1,074
固定資産合計	10,167	9,501
資産合計	33,928	32,387

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,691	3,068
短期借入金	11,160	8,130
1年内返済予定の長期借入金	44	200
未払金	345	101
未払費用	476	485
未払法人税等	196	710
賞与引当金	499	255
設備関係支払手形	56	119
その他	227	213
流動負債合計	16,699	13,284
固定負債		
長期借入金	502	1,224
繰延税金負債	425	436
再評価に係る繰延税金負債	326	223
退職給付引当金	583	582
引当金	240	232
その他	—	19
固定負債合計	2,078	2,718
負債合計	18,777	16,003
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,756	2,756
資本剰余金	2,671	2,690
利益剰余金	9,633	11,042
自己株式	△1,484	△1,457
株主資本合計	13,577	15,032
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	66	△14
土地再評価差額金	519	519
為替換算調整勘定	28	27
その他の包括利益累計額合計	614	533
少数株主持分	959	818
純資産合計	15,150	16,384
負債純資産合計	33,928	32,387

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	42,414	35,744
売上原価	39,087	31,888
売上総利益	3,327	3,855
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	642	568
給料及び手当	538	500
その他	805	994
販売費及び一般管理費合計	1,986	2,062
営業利益	1,340	1,793
営業外収益		
受取利息	0	2
受取配当金	21	13
受取地代家賃	0	43
デリバティブ評価益	532	—
その他	141	112
営業外収益合計	695	171
営業外費用		
支払利息	56	37
為替差損	22	5
デリバティブ評価損	—	42
その他	40	52
営業外費用合計	119	137
経常利益	1,915	1,826
特別利益		
固定資産売却益	0	0
負ののれん発生益	576	290
段階取得に係る差益	64	—
補助金収入	9	139
その他	5	29
特別利益合計	655	460
特別損失		
固定資産除却損	13	10
特別損失合計	13	10
税金等調整前四半期純利益	2,557	2,276
法人税等	933	733
少数株主損益調整前四半期純利益	1,624	1,543
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△103	60
四半期純利益	1,728	1,483

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,624	1,543
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△125	△79
土地再評価差額金	46	—
為替換算調整勘定	△2	△0
その他の包括利益合計	△81	△80
四半期包括利益	1,542	1,462
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,646	1,402
少数株主に係る四半期包括利益	△103	60

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	伸銅	精密部品	配管・鍍金	合計
売上高				
外部顧客への売上高	36,320	2,933	3,160	42,414
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,902	1,683	1	4,586
計	39,222	4,616	3,162	47,001
セグメント利益又は損失(△)	1,398	53	△182	1,269

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,269
セグメント間取引消去	141
全社費用	△71
四半期連結損益計算書の営業利益	1,340

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度の末日に比して、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントごとの資産の金額が著しく変動しております。これは平成23年4月1日付でシーケー金属株式会社を連結子会社化したことに伴い、同社の資産を報告セグメント「配管・鍍金」に計上したことによるものです。

前連結会計年度末に比べて増加したセグメント資産の金額は「配管・鍍金」が5,483百万円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	伸銅	精密部品	配管・鍍金	合計
売上高				
外部顧客への売上高	29,388	2,939	3,415	35,744
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,768	1,058	0	3,828
計	32,157	3,998	3,416	39,572
セグメント利益又は損失（△）	1,716	△47	48	1,716

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	1,716
セグメント間取引消去	259
全社費用	△183
四半期連結損益計算書の営業利益	1,793

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

（減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更に伴う影響は軽微であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（重要な負ののれん発生益）

当社の連結子会社であるシーケー金属株式会社が、同社の自己株式を取得した結果、「配管・鍍金」セグメントにおいて負ののれんが発生しております。なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては290百万円であります。